

Uehara Public report



date
アップデート

05

川崎市議会議員 上原正裕
市政報告書

はじめに

提案
①

提案
②

提案
③

● 市議会議員 6 年を経て気持ち新たに

● 多摩区の未来を拓く 3 つの提案

- ・ 通学路の安全対策としての防犯カメラの設置
- ・ 三沢川浸水対策と水路保全計画策定
- ・ 中野島駅の「北口」の常用化の提案

市議会議員 6 年を経て 気持ち新たに

地元を守るに不可欠な国県市連携

市議会議員初月には、凄惨な登戸殺傷事件が発生、現在も地域による見守りは継続されています。

立て続けに半年後には、令和元年東日本台風による地元は被災し、自治体としての支援の限界に愕然としました。

同時に、同じ災害が起こらぬ様、それまで浸水対策が進められていなかった地域への浸水対策を進めてまいりました。

浸水対策を進める上で、当該河川管理者たる県との協議が難航する中、地元県議の強力なご支援をいただき、現在は市域からの排水は実現する方向となりました。

一方、肝心の、**県管理河川から国管理河川への排水量確保は滞っている**と地元では捉えられており、自民党が標榜する、国、県、市の連携の重要性を今まさに感じています。

エネルギーの街・川崎

太陽光パネル設置義務化と言われる条例も物議を醸しました。いまや国内のメガソーラーは社会問題とも言える状況となる中、パネルの多くは外国産。私としては義務化するなら、国産のものとの主張し、川崎市、横浜市ともご縁のある**ペロブスカイト太陽電池**の提案を行ってまいりました。また核融合など、国内技術に縁の深い新技術への調査も進めています。

わたしたちの住む多摩区からはなかなか想像しづらいですが、エネルギーの街ともいわれる川崎市においては、エネルギー政策への理解を深めております。

こどもを守り育てる

個人として大きな出来事は、コロナ禍の中での娘の誕生でした。幼稚園父母の会の役職からも、子育て制度の課題については日々向き合っており、子育て政策は正に地域づくり、国づくりと取り組んでおります。

また口述しますが、登戸の凄惨な殺傷事件もあり、**防犯カメラの行政による自主設置**も求めています。

世界的都市・川崎は夢か

大都市制度の実現を通じて、世界的なプレゼンスを示すことのできる都市を国内各地に実現していくこと、引いては川崎市を誇れる町にしていく思いを共にする市議会議員が多数います。

本年度、市議会では海外視察が行われ、私もオーストラリア、ニュージーランドに派遣されましたが、現地でKAWASAKIの認知を確認することはできませんでした。

人口にして**日本第6位の川崎市**ですら、広くは知られていないのです。

わたしたちの街を誇れる町に

私たちの街を誇れる町に。政治的な師である廣田健一元市議の政治モットーです。私たちの多摩区、わたしたちの川崎市が、皆様にとって誇れる町となるよう、**2期目半分の二年**が経過した今、気持ち新たに、持てるもの全てを誠心誠意、捧げたい所存です。



はじめに

提案
①提案
②提案
③

多摩区の未来を拓く 3つの提案

令和6年第4回定例会から

令和6年第4回定例会では、年収の壁の引き上げに伴う地方財源への影響についての結論が見えぬ中、各会派の代表質問、そして各議員の一般質問が行われた。

私からは、稲田堤駅のベビーカー・車椅子の通行に優しい幅広改札、登戸北側交差点の混雑調査要望のほか、多摩区そして川崎市の未来を守りたいと願いを込めた**3つの提案**を行いました。

① 通学路の安全対策としての 防犯カメラの設置

現在、川崎市では町内会・自治会等、そして商店会等が設置する防犯カメラに対し、補助しています。**あくまで補助**です。

一方で、通学路の安全対策は、結果的に見守りボランティアの皆様の方に頼り切り、交通安全が主となる。防犯対策は情報共有などに留まり、抑止力に欠けると考えられます。

小学生を付け回しSNSにアップするなど、近年の不審者による犯罪行為とも取れる行為、そして殺傷事件等が続く中、**各自治体は実勢に合わせて、防犯に対して主体的に取り組む必要がある。**

神戸市などは「見る&守る」として、自主的に防犯カメラの設置に取り組む。川崎市にも必要と考える。教育委員会は先行事例を参考に関係機関と連携する考えだ。

登戸の凄惨な殺傷事件から学べ

防犯カメラには記録する能力の他に、そこに存在することで犯罪抑止効果も期待されます。私が議員となって初年度の初月、忘れられない登戸の凄惨な殺傷事件が発生し、尊い命が犠牲となりました。

心からご冥福を今もお祈り申し上げますとともに、この事実をもとに、**多摩区からより安全なまちづくりの提案が必要**と考え、提案に至りました。

すでに取り組んでいる自治体多数

全国では、補助金を出すだけでなく、自治体が自ら防犯カメラを設置している事例が見られます。近隣では、**立川市、調布市、府中市、狛江市、世田谷区**などが挙げられます。

政令指定都市でも、対応はまちまち。先進事例としては、神戸市の「**神戸市カメラ見る&守る**」といった取組が挙げられます。

プライバシー侵害の恐れの声もあり、なかなか自治体自らが設置する方針は固まりませんが、せめて子どもや高齢者を守ることのできる方向性重要です。

川崎市「防犯カメラ設置補助金交付制度」へのリンクQR

継続的かつ計画的に地域の安全・安心まちづくりの推進に係る活動(防犯パトロールや通学路の見守り等)を行う町内会・自治会又は事業者等により組織された団体(安全・安心まちづくり団体)が対象です。



はじめに

提案①

提案②

提案③

多摩区の未来を拓く 3つの提案

② 三沢川浸水対策と 水路保全計画策定の提案（前半）

三沢川浸水対策として、菅稲田堤3丁目にある三沢川沿いの菅第3公園に、浸水対策として、**ポンプ施設の設置が検討されている**。

菅・菅稲田堤・菅城下などの地域雨水を排水するためのものだ。

昨今の気候変動の影響を受け、線状降水帯の頻発もあり、不測の事態への備えは欠かせない。時間あたり雨量58ミリ対応、36億円にも上る規模だが、むしろこの設置規模で十分なのか、能力が不足した時に誰が責任を取れるのか。一方的な「不要論」は許しがたいことも議会で訴えた。

「ぶっきらぼう」にも見えた 当初のポンプ場案に、 住民感情として拒否差戻要求、 令和7年3月再提案見込み

昨年2月に示された、機能を羅列しただけの「ぶっきらぼう」な素案は、景観としても地域の心情的にも受け入れられるものではないことは私からも市に意見し、市も認めた。

現在地域の声を反映すべく、「公園として利用できる空間を最大限確保することを目指し、**地上に設置する設備を最小化する方法**について検討を進めている」との答弁で、本年3月までに案が示されるという。

雨が降ると夜も眠れぬ 被災者の皆様の悲痛な思いとともに

この議題となった時、私の胸を去来するのは、被害にあった地元の人々の痛みだ。現地入りし、町会役員として罹災届の窓口設置を行政に要請し、折り畳み机を持ち込んだ。緊急で町会主体でボランティアの募集をかけ、80名近い「仲間」と、浸水された家庭にお邪魔し、仏壇を運び、水浸しで使えなくなった畳や箆笥を運び出し、行政に緊急要請したパッカー車に運び込んだ。

それでも支援の手は届かず、生活再建にお金も時間もそして精神的にも負担をした被災者の皆様の痛みを忘れてはいけない。

決して繰り返してはならない。今も雨の日は不安が続いている。浸水対策は一刻も早く必要だ。

同時に令和5年の選挙前、この公園で遊ぶ地元の子どもたちとの約束だ。「みんなの遊ぶ環境は守る。」地域の体操、保育園の子どもたちも利用している。ここに暮らす住民の公園での思い出、公園への思いも守る覚悟が必要だ。



はじめに

提案
①提案
②提案
③

多摩区の未来を拓く 3つの提案

② 三沢川浸水対策と水路保全計画策定の提案(後半) 公園も守りたい・子ども達との約束

同時に令和5年の選挙前、この公園で遊ぶ地元の子どもたちとの約束だ。

「みんなの遊ぶ環境は守る。」地域の体操、保育園の子どもたちも利用している。ここに暮らす住民の公園での思い出、公園への思いも守る覚悟が必要だ。**公園への設置ではない方法**についても繰り返し議論してきた。ポンプ車だけでなんとか成らないか、再編整備が予定されている稲田公園への地下貯留池を設置するのはどうか、小型のポンプゲートの複数設置はどうか、これまで代替案について議論をしてきた。住民が納得できる結論が得られるまで、議論を続ける必要がある。

国土交通省 Press Release 「排水ポンプ車操作訓練」

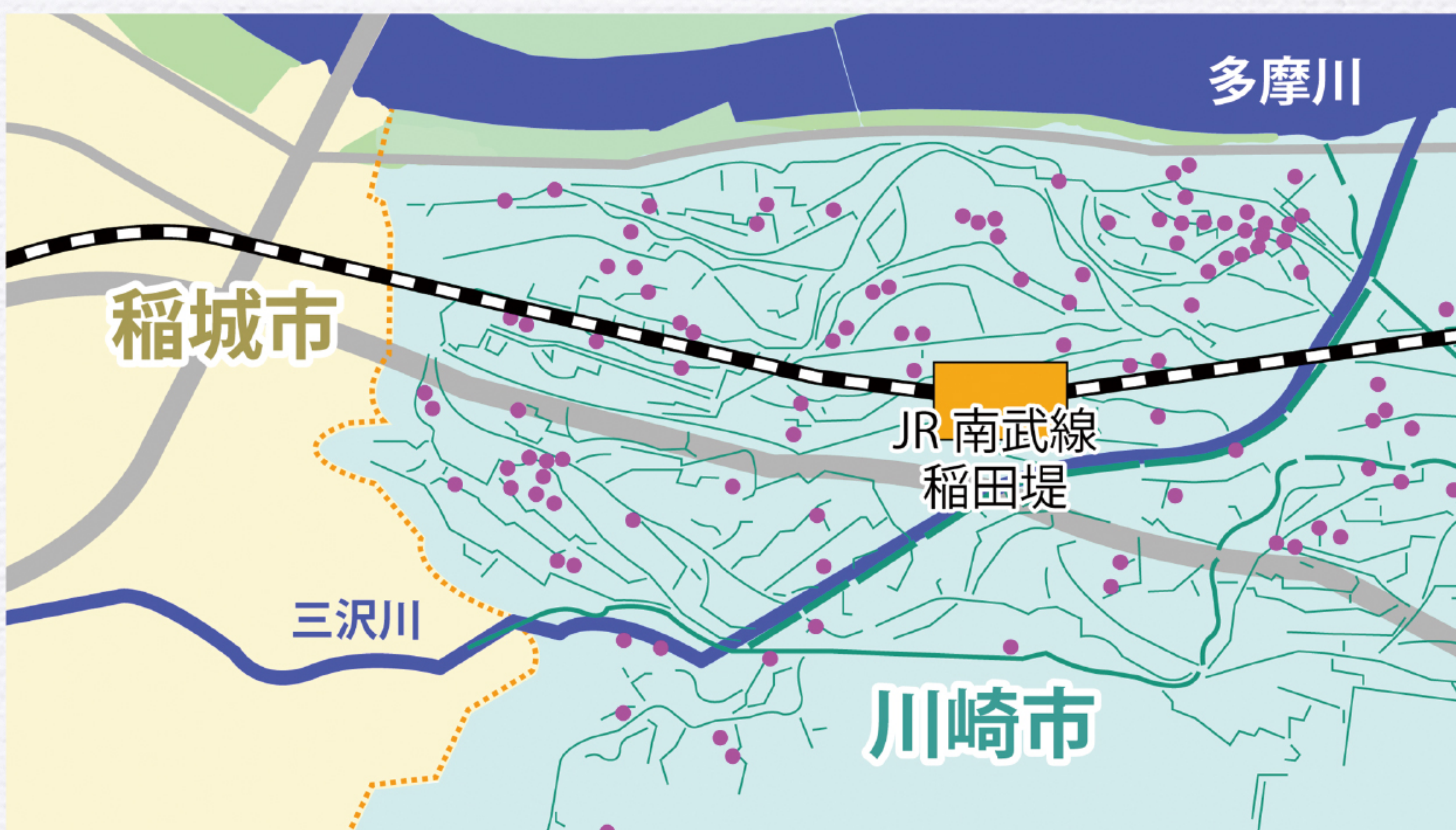


国土交通省徳島河川国道事務所では、豪雨時に堤防の住居側で浸水被害が発生した場合に、所有する排水ポンプ車を被害軽減のため出動させ、現場の排水作業を実施しています。

川崎市水路保全計画を求める

多摩区には市内約150キロある水路のおおよそ1/3が集中している。農業用水が最重要目的だが、実質的に雨水排水施設として機能している水路が、各々の目的に合わせてしっかりと管理されていなければ、浸水対策も「絵に描いた餅」となる。

また水路は生活に密着した存在である。大丸用水の場合、上流**稲城市との連携も不可欠**だ。市内外の関係機関がそれぞれの役割を明確化し連携を取れるよう、**水路保全計画の導入**を提案した。



三沢川→多摩川の排水量確保こそが根本的な課題

令和2年の議会から議会で飽きるほど訴えています。川崎市側でしっかりとした浸水対策をしても、排水先の**三沢川がいっぱいになっては、十分な機能を発揮しません**。ここが根本的な課題です。

川崎市としては、県と協力して市域からの排水に成功させるならば、国への排水は国の責任で行うべきと考えています。三沢川水門を占めてしまうと、内水反乱するリスクが急速に高まります。多摩川本川を氾濫させないために、私たちの町を犠牲にすることなど論外です。

はじめに

提案①

提案②

提案③

多摩区の未来を拓く 3つの提案

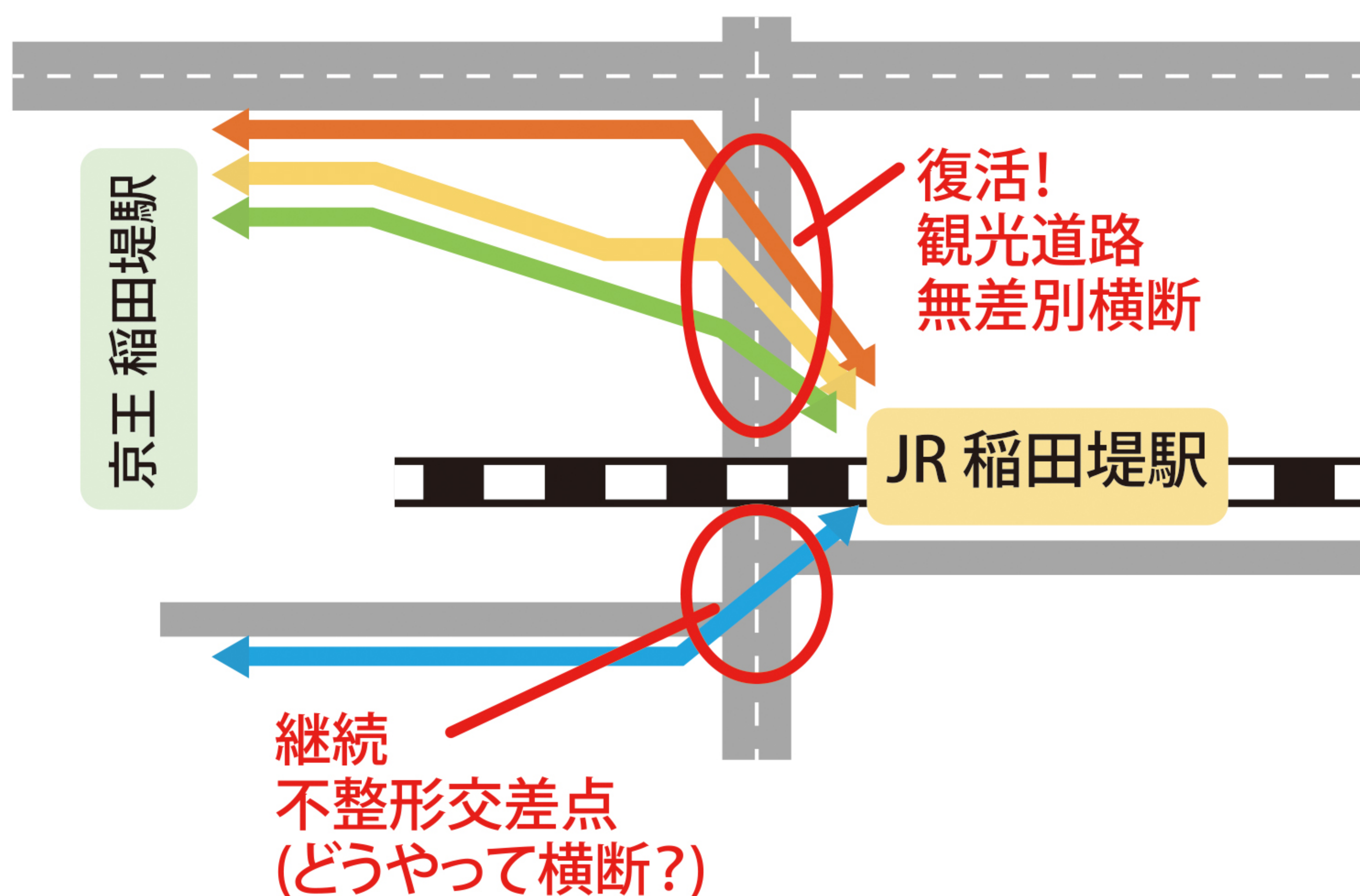
③中野島駅の「北口」の常用化の提案 稲田堤駅の橋上駅舎化の完成と学び

稲田堤駅の橋上駅舎化は、川崎市としては安全確保と地域分断の狙いがありました。実際はどうでしょうか。

踏切を慌てて横断する動機がなくなったという面では、こその効果は疑いようはなく大きな成果です。

観光道路の乱横断については未解決です。

また大きな目的の一つである、地域分断の解消に至ったかどうかは疑問です。



中野島駅で必要なのは、 橋上駅舎化でなく、北口の常用化!

地域の声はどうか?と、平成5年12月定例会と同じように、今議会でも同じように問いました。答弁は「駅利用者からは便利になった、綺麗になった」との内容だったとのことです。地域分断と駅利用者はイコールとは言えません。また地域への意見聴取された形跡もなく、残念ながら汗も情熱も感じられませんでした。

では中野島駅はどうでしょうか?

今後、橋上駅舎化の順番が回ってくる可能性があります、はっきりしません。また、これは本当に最優先すべき地元の総意なのか、中野島駅**南側にお住まいの市民は現改札を、北側にお住まいの市民は北口を使うことの方が優先されるのではないか**、と考え議会で問いました。

稲田堤駅では橋上駅舎化されたが、一つの「歩道橋」が地域分断を解決した実感は私にはない。この経験は生かされるべきだ。30億円を超えた稲田堤駅の例でもわかることだが、工事費用は市が負担することとなる。中野島駅に着手する頃には、さらなる物価高騰の否定できない。開発費を、改札運営費に回すことができないのか。

現在の改札運営費はカリタス学園が負担しているが、市が負担し、市民が終日利用できるようにすることはできないのか。

また大事なことは、しっかりと地元に関心をもち、事業を進めることだ。

一年を経て、地元に関心をもち、事業を進めることだ。心から感謝したい。

中野島駅周辺にお住まいの皆様も、ぜひ行政からの意見聴取にご協力を願う。

はじめに

提案①

提案②

提案③



自民党

自民党控室
〒210-0004
川崎市川崎区宮本町 1
TEL 044-200-3357

発行元



上原まさひろ事務所

〒214-0014 川崎市多摩区菅 2-9-1
グランベルジェ 204



044-946-6027



044-946-6027



mail@uehara-masahiro.jp



市政報告HP : <https://ueharamasahiro.com/>

公式ホームページ



本誌は、川崎市議会議員「上原まさひろ」の市政報告をお伝えするとともに、市民の皆様との「つながり」を大切に制作しております。